

# 令和元年度 事業報告

平成31年4月1日～令和2年3月31日

## 1. アイメイトの育成訓練及び研究開発

### (イ) 【候補犬の訓練】

	訓 練 内 容	適 要
1 カ 月	性格・素質判定と 健康管理	◆ 性格並びに素質を観察 ◆ 健康診断の後、健康上問題のない適性犬は、避妊或いは去勢手術・各種ワクチンを接種。
4 カ 月	基 础 訓 練	アイメイトとして必要な課目を教え、服従心と学習への態度の基礎を作った。
	誘 導 訓 練	ハーネスを付け盲人の歩行時の、障害となるもの、又は危険な物を告知し、或は回避する訓練
	仕上げ及びテスト	指導員が目隠しをして、訓練の完全度をテストした。
4 週 間	歩行指導	アイメイト使用を希望する視覚障害者4名1クラスを原則に、宿泊により指導した。

### (ロ) 【種犬の充実と候補犬の質の向上】

候補犬の資質がアイメイトの実績に大きく関わるので、繁殖犬の選定・組み合わせを考慮した。

種牡・台牝の補充を常に念頭に置き、優秀と思われる犬を探したが該当する犬は見つからなかった。

## 2. アイメイトによる盲人の歩行指導並びに日常生活指導

### (イ) 【調 査】

アイメイト使用希望者に対しては、アイメイトによる歩行指導の可否を判断するため面接調査を実施する。また、使用希望者の質疑に答えたり、実際にアイメイトとの歩行体験をさせたりする事により、安心感を持たせることに努めた。

ペットではないことを理解し、共生して生活することが可能な人であるかを判定する事も大切である。最終的には、アイメイトを使用することにより『積極的に社会参加を目指す意欲』があることが重要ポイントとして調査した。

(ロ) 【歩行指導実績】

回数	期	人数	期間
1	464	2	'19.03.30～'19.04.27
2	465	4	'19.05.11～'19.06.08
3	466	2	'19.06.15～'19.07.13
4	467	2	'19.09.14～'19.10.12
5	468	4	'19.10.19～'19.11.16
6	469	2	'19.11.23～'19.12.21
7	470	2	'20.02.22～'20.03.21
計		18	

(ハ) 【歩行指導内容】

入校（土曜日）		
視覚障害者への 歩行指導	盲人の歩行状態テスト 性格観察	チェーンカラー・引き紐・ハーネスの扱い方、 指導員によるハーネス歩行
	ペア決定	
歩行指導（土曜日から4週間）		
歩行指導	歩行指導開始、各週毎に定められたコースを歩く  第一週：毎日1.7～3.2km 第二週：“ 2.1～4.2km 第三週：“ 3.4～6.8km 第四週：“ 4.8～9.6km 全体で約120kmの行程をマスターする。  各週末にテストを行い、進度状況をチェックする。	歩き方の基本及び姿勢、コーナーの練習、 服従、分岐点、人車道の区別、  歩道橋、信号判断の方法、人車道の区別の ない道の歩行、ガードレール内の歩行、繁華 街、レストラン、エスカレーター、エレベー ター、踏切、電車や自動車の利用法、排便の 始末、犬のシャンプー、ブラッシング、犬の 餌の作り方、体重測定 等
講義内容	犬の管理及び衛生	飼料/内容・作り方・与え方 等 手入れ法/ブラッシング・シャンプー・耳掃除等・犬の歯磨き 等 犬の管理/ 正常、異常の区別、体重測定、投薬、検温、便の始末 等
	アイメイトの使用法	アイメイトの歴史・訓練・指示語・犬の心理及び表情 等。 社会との対応の仕方・アイメイトを使う側のマー
上記の他にこの期間中、健常者と変わらない状態で生活するように(夜間の点燈、スマートな食事の方法等)指導する。		

## (二) 【フォロー・アップ・サービス】

アイメイトによる歩行指導は、視覚障害者の自立と生活の向上を最終目標としている。

卒業生の歩行問題・環境・その他についての質問は、本人から協会へ直接連絡する様に指導した。これは自立にとって大切な行動である。

その質問内容によっては遠近に関わらず訪問指導を行い、卒業生の目としてアイメイトが充分に機能することを目指した。

## 3. 生活に関する各種相談及び歩行指導員の養成

### (イ) 各種相談

使用者のあらゆる相談にも応じ、様々な指導をした。

使用者の犬具の整備、飼育・歩行及び管理に就いての相談や指導、本人の病気など特別な事情の場合の犬の預かり、止むを得ぬ事由の返還犬の飼育、死亡犬の供養、使用者の就職、結婚或いは離婚、住宅問題、公共施設の利用・宿泊問題 等にも誠意を以て対応した。

### (ロ) 指導員の養成

歩行指導員は現在2名である。（別途、1名は来年度中に復職予定）

既存研修生は、5名のうち1名が2回の歩行指導を経験した。もう1名は歩行指導員になることを諦めたため、コーディネーターとして用務をこなすこととなった。

平成31年度新規採用者1名は担当犬に基礎訓練を教えはじめた。

2020年度採用の歩行指導員研修生3名の採用が内定した。

## 4. アイメイトに関する啓発

### (イ) 【啓発】

アイメイトを使用する環境の整備と向上の為に、一般社会への啓発運動として毎月最終土曜日を見学日として体験歩行も実施した。

企業からの依頼や学校・社協・ロータリークラブ、ライオンズクラブ、ガールスカウト、ボーイスカウト等の要請にも可能な限り応じ、マスコミ・出版関係にも協力して啓発の促進を計った。

### (ロ) 【広報活動】

アイメイトの理解に役立つ機関誌『アイメイト 51号』の発刊、その他広報活動を広げ、アイメイトへの理解者及び協力者の拡充を図るように努力した。

アイメイト協会の紹介ビデオを作成し、インターネット動画として認知度向上に努めた。

ホームページも適宜更新し、人に視点を置いた正しい情報を提供してゆく。協会で作成した

DVDも貸し出し或いは頒布し、アイメイト協会の全体像・ポリシーを広めた。

(ハ) 【アイメイト・デー】

アイメイト・デーは43回を迎える。

社会的にアイメイトに対する認識の向上と理解をアピールできる機会と捉え、中身の充実したアイメイト・デーを10月27日(日)に全国町村会館を会場に実施した。

## 5. その他、目的達成に必要な諸事業

(イ) 【当協会の同窓会・後援会・飼育奉仕・繁殖奉仕者・サポート会の充実】

卒業生の集まりである同窓会は総会・レクレーション・CD通信ひろば(年4回)等を実施した。後援会はミニ通信発行や募金活動、チャリティーコンサート、チャリティー・グッズの頒布等を企画・推進した。

飼育奉仕家庭(リタイア犬飼育を含む)及び繁殖奉仕家庭は、陰の力として大きな支えとなっている。飼育奉仕段階での問題にも積極的に機会を捉えて相談に乗ったり、フォローすると共に、繁殖奉仕者・飼育奉仕者及びリタイア犬の飼育者へ感謝の意を伝えるようにした。

サポート会員も層を広げる努力をした。

アイメイト協会は各協力者の方々と緊密な縦横の連繋を取りながら、アイメイトの総合的な発展及び啓発活動を行い、アイメイト育成事業の充実を計った。

(ロ) 【空調設備・車両】

①施設内の空調設備が設置から10年経過し、今後色々な不備が出る恐れがある為クラスの合間を利用して改修した。

②2007年登録の車両(アルファード)を歩行指導及び地方啓発に利用している。初年度登録から10年以上が経過し、走行距離は120,000kmを超えており、事業継続に車両使用は不可欠であるため、JKA補助事業を利用して車両入替を行った。